

平成26年度 全国学力・学習状況調査 福岡県学力実態調査の結果概要

糸島市教育委員会

1 調査の目的

全国学力・学習状況調査及び福岡県学力実態調査は、義務教育の機会均等と水準向上のため、全国並びに福岡県の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育の結果を検証し、学習指導や学習状況の改善を図るために実施するものです。

なお、この調査は学力の一部を調査するものであり、この調査結果をもって児童生徒の学力の全体を評価するものではありません。あくまで学習指導や学習状況の改善に役立てることが目的です。

2 調査実施校数及び児童生徒数

・糸島市立小学校	16校	第6学年児童	924人
・糸島市立中学校	7校（分校含む）	第3学年生徒	981人

3 教科に関する調査の結果

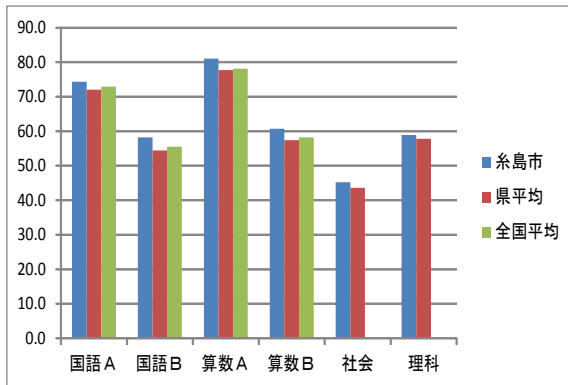
(1) 調査結果の概況（全国、福岡県と糸島市の平均正答率の比較）

全国調査（国語、算数・数学） 福岡県調査（社会、理科、英語）

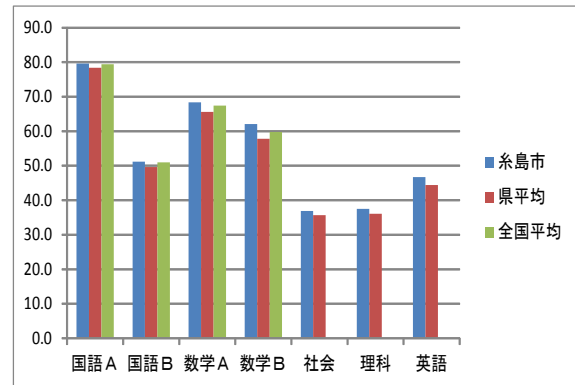
小学校調査		国語A	国語B	算数A	算数B	社会	理科
糸島市	平均正答率	74.3	58.2	81.0	60.7	45.2	58.9
福岡県(公立)	平均正答率	72.0	54.4	77.7	57.4	43.6	57.8
全国(公立)	平均正答率	72.9	55.5	78.1	58.2		
福岡県との比較		+2.3	+3.8	+3.3	+3.3	+1.6	+1.1
全国との比較		+1.4	+2.7	+2.9	+2.5		

中学校調査		国語A	国語B	数学A	数学B	社会	理科	英語
糸島市	平均正答率	79.6	51.2	68.4	62.1	36.9	37.5	46.7
福岡県(公立)	平均正答率	78.4	49.6	65.6	57.8	35.7	36.1	44.4
全国(公立)	平均正答率	79.4	51.0	67.4	59.8			
福岡県との比較		+1.2	+1.6	+2.8	+4.3	+1.2	+1.4	+2.3
全国との比較		+0.2	+0.2	+1.0	+2.3			

【小学校】

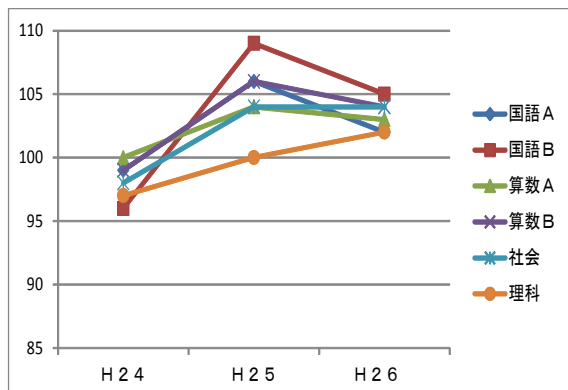


【中学校】

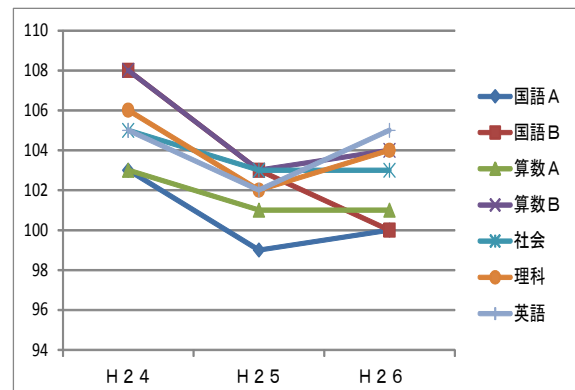


(2) 各分類毎の全国、県の平均正答率との差の推移（全国、県平均正答率を100として比較）

【小学校】



【中学校】



(3) 分類の状況（本年度の正答率に見られる顕著な状況）

	教科区分	正答率が高い問題	正答率	正答率が低い問題	正答率
小学校	国語 A	漢字を正しく書く	98.3	故事成語の意味と使い方を理解する	42.9
		漢字を正しく読む	90.2	情景描写の効果を捉える	60.9
	国語 B	二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える	83.1	立場を明確にして、質問や意見を述べる	31.3
		付箋に書かれた内容を関係づけながら、最初にもった疑問に答える	75.3	分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係づけながらまとめて書く	31.4
	算数 A	繰り上がりのある加法の計算をすることができる	97.7	作図に用いられている図形の約束や性質を理解している	58.5
		商が小数になる除法の計算をすることができる	95.1	割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が（基準量）×（割合）になることを理解している	60.3
	算数 B	示された場面から計算の結果の見通しをもち、（2位数）×（1位数）の筆算をすることができる	94.5	示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる	35.4
		示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めることができる	85.8	示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる	35.8
	社会	交通事故の現場における警察の仕事と消防の仕事を理解している	84.0	資料を正しく読み取り、屋根に水をためるタンクがつけられた家が沖縄県に多い理由を適切に記述している	0.5
		地球儀上における日本列島の位置を理解している	76.2	山で行われている植樹の働きと海での漁業の関係について適切に記述している	2.2
	理科	生物の成長のしかたを理解している	94.8	飲料の容器を凍らしたときの容器内の変化を正しく理解している	20.2
		昆虫を飼うときの注意点を理解している	94.2	回路図のかき方を理解している	32.5
中学校	国語 A	文脈に即して感じを正しく読む	97.7	目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する	54.2
		語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	96.6	文脈に即して漢字を正しく書く	54.7
	国語 B	表現の技法について理解する	69.8	資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く	29.0
		落語に登場する人物の言動の意味を考え、その姿を想像する	66.6	複数の資料を比較して読み、要旨を捉える	32.7
	数学 A	単項式どうしの除法の計算ができる	95.0	関数の意味を理解している	36.3
		対称軸が与えられたときに、線対称な図形を完成することができる	94.7	底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している	36.7
	数学 B	日常的な事象を表した図を観察し、空間における位置に関する情報を適切に読み取ることができる	93.5	付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることができる	22.5
		与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる	88.7	グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を説明することができる	31.2
	社会	資料を正しく読み取り、日本の地方の特色ある生活・文化を理解している	84.6	資料を参考にして、8世紀の日本の文化の特色について適切に記述している	2.7
		世界の州の範囲と名称、海洋の位置と名称を理解している	81.5	資料を正しく読み取り、産業と輸出品の変化について適切に記述している	4.8
	理科	実験結果を正しく理解し、どのような結果が得られるかを理解している	71.9	花こう岩が白っぽく見える理由を含まれる無色鉱物の名称を用いて説明できる	4.7
		オームの法則を正しく理解している	69.5	湿度と飽和水蒸気量から空気中にふくまれる水蒸気量を求めることができる	7.7
	英語	キーワードを聞き取ることができる	95.2	条件に合った、まとまった英文を書くことができる	2.4
		対話文を読み、指定された場面での適切な応答を選択できる	78.5	スピーチを聞いて、キーワードを聞き取り、英語の質問に対する英語の応答文を完成することができる	7.8

4 児童生徒の学習状況に関する調査の結果

(1) 糸島市の概況(肯定的な回答が全国値よりも高い項目・低い項目の主なもの)

【小学校】(当てはまると回答した児童の割合)

質 問	国	県	糸島市
学校の授業以外に、普段(月～金曜日)1時間以上勉強している。	62.0	60.3	71.0
家で、学校の授業の復習をしている。	21.9	17.4	27.0
今住んでいる地域の行事に参加している。	37.7	33.9	49.1
自分には、よいところがあると思う。	35.0	33.5	31.0
学校のきまりを守っている。	39.9	38.0	35.1
国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う。	53.6	51.3	47.5
算数の授業で新しい問題に出会ったときにそれを解いてみたいと思う。	52.0	49.1	48.0

【中学校】(当てはまると回答した生徒の割合)

質 問	国	県	糸島市
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。	71.1	70.5	75.2
学校の授業以外に、普段(月～金曜日)1時間以上勉強している。	67.9	61.9	75.6
家で、学校の宿題をしている。	63.7	63.7	87.2
今住んでいる地域の行事に参加している。	16.6	12.8	20.1
学校のきまりを守っている。	55.6	53.9	59.8
自分には、よいところがあると思う。	24.3	22.8	21.5
国語の勉強は好きですか。	21.4	22.9	15.4
国語の授業の内容はよく分かる。	22.6	22.6	15.4

家庭学習の定着がすすんでいる。一方、自分のよいところを感じていない等による自己肯定感の低さや、きまりを守るという規範意識の醸成には課題が見られる。

(2) 糸島市の特徴的な項目

① 家庭学習

問：「学校の授業時間以外に普段(月～金)、1日にどれくらいの時間勉強しますか。」
→「1時間以上勉強している」と答えた割合

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
糸島市小	64.9	68.5	71.0
県小学校	57.3	62.2	60.3
全国小学校	59.5	63.2	62.0
(県との差)	7.6 ○	6.3 ○	10.7 ○
糸島市中	72.4	68.1	75.6
県中学校	60.6	62.8	61.6
全国中学校	66.4	68.6	67.4
(県との差)	11.8 ○	5.3 ○	14.0 ○

○家庭で「1時間以上勉強している」児童生徒の割合は増加の傾向にあり、授業の復習等を行う家庭学習は定着してきている。
○糸島市内において、平均正答率が県平均を大きく上回っている学校は、「1時間以上勉強している」児童生徒の割合が77%を超えている。家庭学習の充実をはじめとした学校以外での学習習慣の定着や、学習機会の充実をさらに図る必要がある。

② 規範意識

問：「学校のきまりを守っていますか。」
→「当てはまる」の割合

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
糸島市小	34.7	40.7	35.1
県小学校	39.0	38.3	38.0
全国小学校	41.6	39.8	39.9
(県との差)	-4.3 ▲	2.4 ○	-2.9 ▲
糸島市中	61.1	50.5	59.8
県中学校	51.5	52.3	53.9
全国中学校	51.5	52.9	55.6
(県との差)	9.6 ○	-1.8 ▲	5.9 ○

○「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校では国・県を下回っているが、中学校では上回っている。
○規範意識について、文部科学省の報告では「学校の決まりを守っている」と回答している児童生徒の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られると分析している。小学校段階から基本的生活習慣の確立や、規範意識を高めるための手立てを講じる必要がある。

5 学校の指導状況に関する調査の結果

(1) 糸島市の概況(肯定的な回答が全国値よりも高い項目・低い項目の主なもの)

【小学校】

質 問	国	県	糸島市
授業中は私語が少なく、落ち着いている。	36.5	34.0	43.8
前年度までに授業の冒頭でめあてを示す活動を計画的に取り入れた。	64.4	78.3	75.0
教科の指導内容や指導方法について近隣の中学校と連携している。	18.4	17.8	43.8
前年度までに地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った。	25.5	22.8	43.8
模擬授業や事例研究など実践的な研究を行った。	60.5	61.6	75.0
対象学年の児童は、熱意をもって勉強している。	22.6	15.0	18.8
対象学年の児童は、礼儀正しい。	27.0	22.2	12.5
漢字・語句などの基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行った。	51.0	42.8	25.0
国語の指導として様々な文章を読む習慣を身につける授業を行った。	19.4	17.5	12.5
職場見学や職場体験を行った。	44.9	31.9	37.5

【中学校】

質 問	国	県	糸島市
授業中は私語が少なく、落ち着いている。	46.2	35.6	71.4
対象学年の児童は、礼儀正しい。	36.8	26.5	57.1
前年度までに授業の冒頭でめあてを示す活動を計画的に取り入れた。	49.0	62.1	100.0
教科の指導内容や指導方法について近隣の中学校と連携している。	28.7	33.3	71.4
保護者に対して生徒の家庭学習を促す働きかけをおこなった。	30.4	32.5	71.4
模擬授業や事例研究など実践的な研究を行った。	39.5	34.2	71.4
自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導を行った。	19.9	9.7	14.3
本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身につくよう指導した。	17.7	6.6	14.3

(2) 糸島市の特徴的な取組

① 指導方法

問：「国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか。」
→「よく行った」の割合

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
糸島市小	26.7	25.0	31.3
県小学校	23.6	21.4	25.2
全国小学校	28.3	27.6	29.2
(県との差)	3.1 ○	3.6 ○	6.1 ○
糸島市中	57.1	42.9	42.9
県中学校	29.5	30.1	28.8
全国中学校	31.6	33.6	35.2
(県との差)	27.6 ○	12.8 ○	14.1 ○

○糸島市の各小中学校では、書く活動の充実に積極的に取り組んでいる。文部科学省の報告によると、書く活動の充実に取り組んだ学校の方が国語における平均正答率が高い傾向が見られると分析しており、今後も継続して取り組みたい。

② 少人数による習熟のための学習

問：「第4学年の時の算数（中学校は第1学年の時の数学）の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか。」
→「年間の授業時数の1/2以上行った」の割合

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
糸島市小	40.0	31.3	25.1
県小学校	16.8	18.3	16.0
全国小学校	24.3	23.9	23.8
(県との差)	23.2 ○	13.0 ○	9.1 ○
糸島市中	71.4	28.6	57.2
県中学校	17.7	17.1	14.5
全国中学校	17.4	17.9	16.8
(県との差)	53.7 ○	11.5 ○	42.7 ○

○糸島市の各中学校では、少人数による習熟のための学習について積極的に取り組んでいる。生徒一人一人の学び方に応じた指導を行うことにより、分かる授業づくりに取り組んでいる。今後も児童生徒の実態に応じて、柔軟な指導体制の工夫を行っていききたい。

③ 校内研修の充実

問：「模擬授業や事例研究など、実践的な研究を行っていますか。」
→「よく行った」の割合

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
糸島市小	66.7	62.5	75.0
県小学校	58.6	61.1	61.6
全国小学校	59.2	60.3	60.5
(県との差)	8.1 ○	1.4 ○	13.4 ○
糸島市中	85.7	71.4	71.4
県中学校	33.4	31.0	34.2
全国中学校	38.8	39.4	39.5
(県との差)	52.3 ○	40.4 ○	37.2 ○

○文部科学省の報告によると、模擬授業や事例研究などの実践的な研修を行っている学校の割合は平成 25 年度との比較では大きな変化はないとしている。このような中、糸島市においては小中学校の7割が「よく行った」と回答している。このことは、実践的な授業力の向上に積極的に取り組んでいることを示していると考えられる。今後も授業力の向上に向けた取組を継続し、児童生徒の学力の向上を図っていきたい。

6 学力向上に対する取組

児童生徒の学力の向上のためには、学校や家庭、地域がそれぞれの役割を果たしながら、学力向上の取組を進めることが大切であると考えています。子どもの教育の基盤である家庭教育との連携、学び方を習得し確かな学力を身につける小中学校の連携、学んだことを生かしたり試したりする地域での活動の充実などに取り組むことが必要です。そのために、糸島市では次のような取組を積極的に推進しています。

- (1) 小中連携事業（中学校区小中連携教育研究事業）
 - ・小中学校が連携し、学習指導や生活指導の小中学校の接続を大切にし、9年間で子どもを育む体制づくりを推進しています。
- (2) 学力支援事業
 - ・保護者や地域の方々を活用した個別学習、朝の活動や放課後学習等を推進しています。
- (3) 土曜授業の推進
 - ・授業時数を確保し、学力向上を図る補充学習や発展的学習等を土曜日に実施しています。
 - ・学校、家庭、地域連携が連携した学習参観や学校行事等を実施しています。
- (4) 市独自の学力検査と生活対応調査の実施、及び県の診断テストの実施と教材集の配布
 - ・全小中学校において学力調査及び生活対応調査（楽しい学校生活をおくるためのアンケート調査）を実施し、子どもの実態に応じた学級経営や授業の改善に取り組んでいます。
 - ・県が作成した「学力診断テスト」「基礎基本を含む活用力を育成する教材集」を活用し、学力の定着の状況を把握するとともに、日々の授業の充実に取り組んでいます。
- (5) 糸島市教育センター事業
 - ・学力向上のための教職員の指導力を高めるため糸島市教育センターにおいて、多様な研修会を実施しています。
- (6) 学力向上事業
 - ・学ぶことの目的や将来の目標をつかむ伊都塾（中学校対象）を実施しています。
 - ・九州大学の教員を講師に招き、教職員の指導力を高めるための教職員等の研修会を実施しています。
- (7) 学校教育ネットワーク事業
 - ・優れた学力向上の取組を市内各学校で共有化するためのネットワークを構築しています。
- (8) その他
 - ・中学校において、2泊3日の勉強合宿の取組を実施しています。
 - ・地域の人材を活かした学習機会を提供しています。
 - ※糸島市ボランティア派遣事業で、学校に専門的知識を有した人材を派遣しています。
 - また、校区まちづくり事業の一環として、元教師等の地域の人材が小学生を対象に公民館で放課後教室を開催しているところもあります。